

「釧路地域民有林への列状間伐の普及」

地域課題の解決に向けた取組
根釧西部森林管理署

先人たちが植えて育てた多くの人工林が利用期を迎えており、地域の森林資源を活かして「地域再生」に結び付けることが期待されています。

そのためには森林資源を循環利用するなどして林業を成長産業化させることが重要になっていきます。

一方、地域の林業においては、労働力の不足、小規模な所有形態が多い、生産コストが高く採算性が低いなどの課題があります。

釧路地域の民有林の間伐は、一回目は列状で実施しているものの、二回目以降は定性が多くチェーンソーで行っており、高性能林業機械の導入があまり進んでいない状況です。

採算性の向上やかかり木の発生を未然に防止し、木材の安定供給にも繋げるため、低コスト高

効率作業システムを二回目以降の間伐にも普及させる必要があると考えました。

振興局林務課などとも協議のうえ、平成二十六年度は、間伐の採算性の向上と労働安全の確保を目的に「民有林への列状間伐の推進」を課題と定めました。

国有林の四回目間伐箇所、民有林関係者等と連携して、高性能林業機械による列状間伐の現地見学会を開催しました。



【高効率作業システム現地見学会】

かかり木の発生も少なく、残存木の損傷も少ないこと、多少地形が悪くても作業方法等の工夫で、安全で効率よく作業できることを確認し、引き続き、列状間伐の推進や低コスト化に関する技術的な情報の発信を行うこととしました。

平成二十七年度は、前年度の取組に加えて、将来の造林作業と林業の低コスト化を目的として「繰り返し利用可能な堅固な森林作業道の作設」を課題と決めました。

作設技術の向上を普及させるため、先ず、当署の素材生産請負事業者の作設技術を向上させて、路網構想や作設に応用することで地域林業の低コスト化の実現を目指すこととしました。

取組にあたっては、六月の当署の事業説明会において、その趣旨説明と作設基準などの講義を行



【森林作業道作設現地検討会】

い、各社の現場で作設してもらいました。

ハーベスタなどが林内で作業することを想定し、森林作業道の作設延長を極力短くするなど、路網配置などの指導を行いました。

十月には現場代理人やオペレーターが参加して各社の現場七箇所で開催し、各社の路網作設の考え方や工夫した点について意見交換を行い、技術の向上に結び付けました。



【工夫して作設された森林作業道】

参加者からは、「このような機会がないと他社の作設現場を見る機会がないので勉強になった。他社の良いところは採り入れて技術を向上させたい。」との意見もあり意欲的でした。

引き続き、国有林のフィールドや技術を活用して、地域林業の課題の解決に向けて、民間連携して取り組むことといたします。